

令和8年産 京都八木産キヌヒカリ 栽培指針

月旬	11月~12月		4月			5月			6月			7月			8月			9月					
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
生育																							
主な作業	SUS		JAで実施 温湯消毒			代かき			箱処理 田植え 除草剤			中干し			草刈 仕上防除			落水 刈取り					
水管理																							
10aあたりの施肥例	<p>元肥 秋又は春に液肥 4t/10a</p>		<p>床土消毒 ダコニール1000 (育苗センター苗)</p>			<p>元肥(初期用) 新京都有機200号 20kg/10a</p>			<p>ルーチンアドマイヤ 箱粒剤 50g/1箱</p>			<p>除草剤(いずれか一つ) ●シングキ1キロ粒剤 移植直後~1kg/10a 田植直後から1週間以内の 散布が効果的 ●クリンチャー1キロ粒剤 移植直後~1kg/10a 移植後25日からノビエ5葉期 ただし、収穫30日前まで</p>			<p>穂肥 液肥 2t/10a</p>			<p>トップジンスターク ルフロアブル 無人ヘリ仕上げ防除</p>					
作業のポイント	11月~12月		5月			6月			7月			8月			9月~								
	1、 排水につとめる		2、 温度管理に注意する			3、 その後は浅水管理を基本とする			4、 軽くつく程度の硬さがよい			5、 行いましょう			6、 一穂中の9割が黄色くなった頃			7、 仕上水分は 十四・五〜十五%に					
	○ワラ全量還元		○苗の軟弱徒長にならないよう			○活着までは、深水管理とし			○開始し、砂質田では足跡が			○出穂の一週間前までに草刈りを			○適期刈取は、出穂後40日を目安に			○乾燥を開始する					
	○土量還元		○稚苗は箱当り			○4~5日は水を動かさないようにする			○中干しは一株一八〜二〇本で			○と量を決めましょう			○仕上防除でカメムシ被害を抑制			○刈取後4時間以内に通風または					
	○排水につとめる		○稚苗は箱当り			○除草剤散布後は深水として			○倒伏防止と受光態勢の向上を			○葉色と生育に応じて穂肥時期			○その後は、間断かんがいを			○落水は、できるだけ遅らせて					
	○排水につとめる		○稚苗は箱当り			○暖かい日に田植えする			○中干しで丈夫な稲体をつくり			○症状が出た場合は、ご連絡を			○出穂期前後は、やや深水管理			○刈取、乾燥・調整					
	○排水につとめる		○稚苗は箱当り			○強風、雨天、低温の日を避け			○田面を均平にする			○特別栽培米では途中でもち病			○一等米仕上げ			○落水は、できるだけ遅らせて					